

「土砂災害から思うこと」

高松市立国分寺中学校 1年 山本 葉 さん

ここ数年、ほぼ毎日のように世界中で災害が起きています。そして、「未だかつてない」と言われる規模の災害が発生しています。日本では、七月初めに熱海で大規模な土石流が発生しました。インターネットでは、リアルタイムでその様子を知ることができる時代です。そのすさまじさに驚くと同時に恐怖を感じました。

僕が土砂災害について書こうと思ったきっかけがあります。この春、兄が広島県へ引っ越しました。広島県では平成二十六年八月に、豪雨による土砂災害が発生しています。七十人を超える死者を出しました。兄の住居を探す時に、両親はかなりの時間をかけてハザードマップを調べていました。そのような姿を見て、土砂災害やその防止対策を知ること、とても大切なことだと思ったからです。

大雨は自然現象です。人間が止めることはできません。誰かの責任でもありません。しかし、七月初めに熱海で起きた土石流は、人為的に発生したのではないかとされています。山を開発、造成して盛り土した部分が崩れたようです。人為的な手が加えられていない自然のままの地盤は、「崩れていない」と現地調査した大学教授が話しています。盛り土する場合は相当しっかりした地下水対策を行う必要があるとも話しています。地下水対策とは、土砂災害を防止する対策のことです。雨によって土に含まれたまっく水は排出して、山が崩れるのを防ぐ方法です。残念なことに、この地下水対策がされていなかったようです。レスキュー隊や自衛隊、さまざまな人たちの懸命な救出活動が、今現在も続いています。行方不明者が数名いますが、早く見つかってほしいと思います。今後同じような雨が降ると、さらに崩れる可能性もあります。これからどうしたらいいのかと不安になっている被災者の気持ちを考えると、何とかがんばってほしいと願うばかりです。インターネット上には、この時の実際の映像がさまざまな角度から撮影されていて見ることができます。土石流の威力は体験した人にしか分からないことかもしれませんが、映像を見るだけでも、どれほどすごい破壊力を持った恐ろしい現象であるのか伝わります。山の上から大量の土砂と真っ黒な水、それに押し流された家屋が、下にあるものを次々とのみこみながら流れていく様子は、何にもたとえることができないほどの恐怖です。近年、このような災害が日本全国で起きています。自分の住んでいる香川県は、災害が少ないと言われています。確かに、僕が生まれてから今まで、命に関わるような大きな災害にあったことはありません。しかし、それだからといって、大丈夫、安全ということはないと思います。あらためて、自分の家はどのような場所に建てられているか調べました。五色台のすそに近く、地盤は固いようです。また、土砂災害警戒区域ではありません。そして洪水浸水想定区域でもないことが分かりました。このことが分かって安心しました。でも、この地球上に「絶対…」という完全はないと思わなければいけません。なぜなら、災害が発生するたびに、「未だかつてない」と誰もが言うからです。もし災害が発生したら、自分はどのように行動すればいいのか考えておく必要があります。また、自分一人のことではなく、家族間で話し合っておく必要もあります。この機会に家族で話し合ってみました。まず、防災、非常用グッズを整理し、見直しました。そして、避難場所の確認と連絡を取り合う方法を決めました。普段何事もない時に考えておくことで、非常時にあわてなくてすむのではないかと思います。とても良い機会でした。

世界に目を向けると、日本の何倍もの被害におよぶ災害が発生しています。先日、中国中部の洪水のニュースを見ました。地下鉄では、トンネル内の車両が浸水し、十数名の方が亡くなっています。また、土砂災害も多数発生したそうです。中国には、日本の企業もたくさん進出していて、恐ろしい体験をした日本人が多くいたことと思います。これもまた、「未だかつてない」規模の災害で、千年に一度の豪雨と言われていました。中国にかぎらず、ドイツ、トルコ、インドなどでも同じ時期に土石流が発生しています。

このように、豪雨をもたらす原因の一つが地球温暖化の問題です。人間の活動が活発になるにつれて、地球全体の平均気温が上昇しています。今からでも僕たち一人一人ができることを考え、取り組むことが大切だと思います。便利さを求める生活にこだわるのではなく、節約を心がけて、エネルギーを無駄にしない生活をしていきたいです。